

泣けないペット

作詞 J'Soul (浅羽一)

お菓子のおまけに付いていた様な 鳴らないオモチャの鈴をぶら下げて
今夜も一人きり扉の前で 尻尾を丸めご主人様を待つ
乱れたシーツの上で目を覚まし 寄り添う寝顔の頬^{ほお}なめて起こす
ほんのわずかに許された時間は 自分の心を見つめて欲しくて
そして一匹はガラスの中から 遠ざかって行く背中を見送る
遙か彼方に姿が消えても 見えないはずの背中を見送る
それはまるで運命の最果てを その目の奥に焼き付ける様に
喜びも悲しみも何もない 青く透明なその目の奥に…
首に巻き付く革のベルトが この身に宿る愛情の証で
背中に残る赤い爪跡は この身を縛る欲望の証
自分の声までご主人様の 微笑みに捧げたペットが歌う
ずっと一緒に過ごしていたいと 鳴く事の出来ないペットが願う
『あなたがいない夜は淋しい』と 泣く事も出来ないペットが…

} ●繰り返し

壁の向こうから聞こえる喘^{あえ}ぎに 耳をふさいで朝まで夢を見る
両手で抱きしめる鳴らない鈴が 誰にも聞こえない悲鳴を上げた
温もりに気付き幸せを探す 腰に回された腕に息を吐き
束の間の安らぎに目を細め 夢と現^{うつつ}の狭間^{はざま}でまどろむ…
過去も未来も淡くかすれて 現在だけの愛情を求める
痛み・快樂・感じる全てが 欲望の花を鮮やかに染める
●繰り返し

否定はしない 振り返る事は許されない
歪んだ愛だと言われても 例えペットでも…手を伸ばしたのは自分だから…

●繰り返し